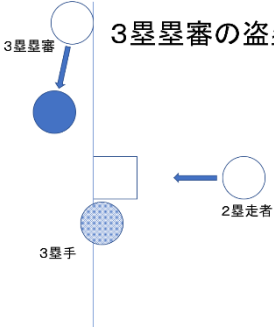


## 2019 年度 大分県軟式野球連盟審判講習会講習内容の報告

2019 年 3 月 31 日(日)

- ・セーフの動作  
これまで 腕を伸ばし前であわせてから広げる  
今年から 両肘を曲げ、素早く広げる
- ・ストライクゾーンを決定する打者の構えは、打者が踏み込んでバットが出る前の姿
- ・投手の投球動作  
ランナー無しで、2 段モーションまたは止める動作→ペナルティなし  
ランナーがいて、2 段モーションまたは止める動作→ボーク
- ・投手の禁止事項でこれまで軟連が見送ってきた事項についても今年度からは適用する  
○投手がマウンド付近でのユニフォームでボールを拭く →ボールを交換  
○投手がマウンド付近で指先をなめる →ボールを交換  
○投手が投球する際に一度離れた両手を再び合わせたり、投げ手でグラブをたたいたりする→ボーク
- ・三盗を試みたときの 3 塁塁審の判定する位置をできるだけ右の図のようにしてください。(努力目標)  
これまで、遊撃手の方向に入って見ていたが、捕手からの送球に当たる恐れがあるためとのことです。

3塁塁審 3塁塁審の盗塁を見る位置  
2塁走者  
3塁手
- ・ランダウンドレイなどでの野手がタッグにいったかどうかの判断基準  
これまで 腕を伸ばしてタッグにいった  
今年から タッグを行う行為があった(必ずしも腕を伸ばす必要はない)  
→走者が走路をはみ出してこのような行為があったら、「ラインアウト」のコールをすぐに行うこと
- ・学童 投手の投球制限 1 日 7 0 球以内の適用は、今年度は県大会のベスト 4 以上の試合で予定。各支部の判断で運用してもよい。
- ・臨時代走  
打者が頭部にヒットバイピッチを受けたときは、球審は攻撃側監督と協議し臨時代走の処置を行うことができる。  
塁上の走者が負傷した場合で、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判員が判断したときは、臨時代走の処置を行うことができる。
- ・タイブレーク方式  
継続打順で、前回の最終打者を 1 塁走者、その前の打者を 2 塁走者とする。すなわち、0アウト1・2塁の状態にして1イニングを行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は・・・(以下省略)
- ・タイムの回数制限  
攻撃側のタイムは1試合に3回以内とする。延長戦(タイブレークを含む)は、2イニングに1回とする。  
守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることができるが、守備側のタイムより長引けば攻撃側の1回とカウントされる。  
攻撃側のタイム中に守備側は指示を与えることができるが、攻撃側のタイムより長引けば守備側の1回とカウントされる。